

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2375700669
法人名	社会福祉法人 瑞祥
事業所名	グループホーム オレンジ
訪問調査日	平成 20 年 1 月 18 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 29 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2375700669
法人名	社会福祉法人 瑞祥
事業所名	グループホーム オレンジ
所在地	愛知県知多郡美浜町大字野間字新前田212-1 (電話) 0569-87-3200

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市千種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成20年1月18日	評価確定日	平成20年3月29日

【情報提供票より】(19年12月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 12 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤	6 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6.4 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,400 円		

(4)利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	6 名	男性	2 名	女性	4 名	
要介護1	1 名	要介護2	5 名			
要介護3	名		要介護4	名		
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	79.6 歳	最低	67 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 瑞心会 渡辺病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人が運営する複合施設の一角にあるグループホームである。当ホームは1ユニットの6人で、ゆとりを持って利用者に目が届く介護をしたいという管理者の思いでつくられた。そのため利用者・家族・職員の関係は連携が取れており、お互いに信頼関係が保たれている様子が伺える。法人としての行事であるオレンジ夏まつりは、町の行事の一つとなっているほど地域の人々と密着している。その他にも裏の神社の散歩に行ったり、喫茶店へ行ったり、また釣りが好きな人は釣り場まで歩いていったり、お墓参りに行ったりと外出は多彩である。研修には、法人として積極的に取り組んでおり内外の研修に職員を参加させている。少人数なので、利用者の一人が併設している病院に入院したら皆でお見舞いに行くほど、家庭的なホームである。利用者本位のサービス提供を行うことを念頭に、きめ細かにニーズに応える努力をしているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は、ホームと利用者各家族との交流についてであった。現在も十分に交流が図られているが、更に家族間の交流も期待して家族会を立ち上げることを検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と職員が会議で話し合い、それを管理者がまとめた。その中で気付いた改善点を全職員で検討し、改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3ヶ月ごとに開催されており、主な出席者は住民代表、市町村職員、地域包括支援センターの職員、利用者、家族などである。題は、ホーム活動状況の報告や利用者の状況、行事のお知らせについて等である。家族の率直な意見等を聞き、日々のサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族と職員とは信頼関係が出来ており、家族は利用者と言えない事を職員に聞いてもらったりしている。家族の来訪時には、利用者の今後についての相談や対応の仕方などについて話し合う事がある。職員は必要な事はミーティングで検討し、共有してケアの向上を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	現在オレンジ夏まつりは町を代表する祭りとなっており、地域の人々は楽しみにしている。又、産業祭りに行ったり、保育所の運動会に行ったり、園児が来て遊戯をしたりするなど地域との交流は深まっている。大正琴やカラオケのボランティアも訪れている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「人間としての尊厳を大切にし、その人らしさを活かす」としている。地域密着型サービスとなって、管理者と職員で付け加えた理念は「地域とのつながりを大切に共存していくこと」である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に額に入れて掲示してあるので、職員は日々確認する機会が多い。又、日々の介護において職員は理念を確認し共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人として行うオレンジ夏まつりは、美浜町の行事として地域の方々が楽しみにしているほどである。その他産業まつりに出掛けたり、近くの保育所の運動会に参加したりまた、園児がホームに来て遊戯をするなど、地域との交流は頻繁に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価は、管理者と職員が会議で話し合い、管理者がまとめた。自己評価によって、新たな気付きも発見できた。外部評価を受けることによって示唆をうけたことに同意、納得して、それを取り入れていこうとする姿勢が伺えた。評価の改善事項や課題は、会議で検討し改善を図っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は3ヶ月に1回当ホームで開催している。家族も協力的で順次出席してもらっている。会議で出された意見や要望はミーティングで改善策を考え、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	美浜町民生課の職員が法人全体の利用者の多くに関与しているので、ホーム職員もかわりを持っている。又、法人では、困難事例に当たって市町村と相談しながらの取り組みを行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪は頻繁にあり、出勤前と退社後に1日に2回来る人もいるほどである。そのため家族とは話す機会が多く、その都度報告をしている。金銭管理は預かり金として、個人毎の小使い帳をつけている。	○	小使い帳を家族に見せたときに、家族の承認サインをもらうなどの考慮が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪が多いため、今後のことの相談があったり、利用者には言えないことを職員に聞いてもらうなど、家族と職員の関わりは良好である。それらの家族からの意見や要望は職員で話し合い共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はあるが、施設が一体化しているため日頃から行き来があり、利用者のダメージはあまりない。新しい職員は、利用者に意図的に話しかけ馴染むように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画をたてて、職員を育てる取り組みをしている。ホームからの研修は仕事扱いで、出張として行っている。又、法人内で講師を呼んで研修を受ける機会を設けている。その他、個人で行きたい研修があれば、休みを利用して行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加して、交流する機会を設けている。そこで意見交換をしてホームで活かすように取り組んでいる。又、その時に知り合ったお互いのグループホームを見学することを検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望が多く予約待ちの状況がある。予約時には、まずホームの見学をしてもらい本人納得の上で待機してもらっている。入居が近い時点でホームの雰囲気を知ってもらうために再度ホームを訪ねてもらい昼食を共にする事もある。入居後は利用者がホームに馴染めるように職員は意図的に話しかけるなど細やかな配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の好きな事や得意な事、例えば家事全般、習字や畑での花・野菜作りなど日常生活に取り入れ喜怒哀楽を共にしながら、利用者から学ぶ気持ちで支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者である前和尚さんは毎日法要をするのが日課である。また利用者は職員が声をかけなくても、調理の準備時間になると、自然に台所に集るなど自分の意志によって行動することを了解しており、あえて指示はしない。他に職員は利用者の意志を尊重してお墓参りに行ったり、昔なつかしい地域に一緒に行くなど出来るだけ利用者の意向を汲み取りそれを実践している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は日常業務の中での気付きや利用者の状態を記録に残したり、家族の来訪時に利用者に関する気付きや意向などを聞いている。それらの情報を月1回の定期的な職員会議で話し合い、利用者がより良く暮すことができるような計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月毎の見直しをしている。しかし利用者の状態に変化がある時は早急に職員会議を開き、計画書の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者がお墓参りを希望した時は一緒に行ったり、ホーム入居前のかかりつけ医への通院など家族が対応できない時に職員が付き添いをしている。また、併設の介護施設と一緒にレクリエーションなどを行う時もあり、法人全体でそれぞれの施設の特徴を活かした支援ができるようになっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の病院が入居前から、かかりつけ医の利用者もいるが、他のかかりつけ医へ通院している人もいる。どちらも適切な治療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、家族との話し合いはしているが、併設の病院から毎日訪問する看護師が利用者の状態を把握している。緊急時は併設病院の看護師を待つだけでなく、臨機応変の行動について検討されていると察する。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護については利用者家族に同意を得ている。職員も理解しており周知して日常業務を行っている。また利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言動はしていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個々の生活パターンは概ねできているが日により多少変化が見られることがある。その時には職員がそれとなく声をかけて変化に即応した支援をしている。利用者間には生活を共にする親しみが育っておりそれなりの行動を伴うことが度々見られるが、職員は基本的には利用者本位の生活を大切に希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はホームの畑でできた食材を使う時もあり、食事の準備時間になると進んで部屋から出てくる。職員も利用者と同じ食事をして、食べこぼしなどさりげなくサポートをしている。利用者個々のペースに合わせ食事をしており、後片付けも利用者が各人のペースを見計らい片付けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は基本的には9時～18時となっているが、利用者に入浴時間を聞き、それから湯ばりをしている。いずれもゆっくり入っている。入浴拒否がある場合タイミングを見計らい、声をかけることによって入浴している。週3回は入浴が出来るよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の得意分野を把握して、習字の得意な人は時には先生となり他の利用者や職員も指導を受けたり料理、畑仕事等日常生活の中で活躍してもらう場面を作り、毎日楽しく暮すことが出来るように工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は利用者と近隣の神社や買い物兼ねて散歩に出かけたり、魚釣りの好きな人には釣り場まで行ったり、また、お墓参りにもいっている。月1回ほど外食をして利用者の気分転換が出来る様に配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は外からは入れるが、中から外へは施錠してある。職員は利用者が外出希望の時には一緒にでかけている。また入口でうろうろしている場合は声をかけて外出希望かどうかを聞いて対応している。	○	玄関施錠は利用者の安全確保のため、家族の了解の下に行っているとの事であるが、職員が利用者の状態をしっかり把握していれば、玄関の鍵をかける必要はない。そして職員が鍵をかける事で安心感をもつのは如何なものか、今一度検討される事を期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は併設の法人と合同で年2回行っている。その時には消防署職員の指導の下に利用者も参加して行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の食事量や水分量を日常的に観察しており、栄養バランスは概ね取れている。だがいつもより摂取量が少ない時には注意を払い記録に記載している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天窓があり吹き抜けになっており、日射しがよく入り明るく開放感がある。また、利用者の手作りのカレンダーや書初めが飾ってある。利用者は食卓テーブルの椅子以外に居室の横などにお気に入りの椅子があり、そこで寛いで居る時もある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は仏壇、写真、タンス、テレビなど馴染みのある物が置いてあり、ベッドを置いても広く、またトイレも個々に設置してある。居室の扉の横には利用者が書いた習字などの作品が飾ってあり、居室間違いを防いでいる。利用者は居室で自由に、居心地よく過ごしている。		